

氏 名 キョ エイラン  
許 永 蘭

学位の種類  
(専攻分野の名称) 博士(文学)

学位記番号 国言博第135号

学位授与年月日 平成25年3月25日

学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当

論文の題目 現代日本語における「切断・分離」を表す動詞の意味分析

論文審査委員 (主査) 名古屋大学 教授 初山 洋介  
准教授 李 澤熊  
教授 鹿島 央

## 主 論 文 の 要 旨

論文題目 現代日本語における「切断・分離」を表す動詞の意味分析

氏 名 許 永 蘭

## 論 文 内 容 の 要 旨

本稿は、現代日本語における「切断・分離」という意味を表す動詞の中で、「キル」、「キレル」、「キラス」、「ワル」、「ワレル」、「サク」、「サケル」という7つの動詞を考察対象とし、その意味を分析し記述することを目的とした。

第1章では、まず、本稿の目的を実達成するために、少なくとも、次の2つのことが問題になることを示した。

- (1) ①本稿の考察対象の各語は、同一の形式に、関連を持つ複数の意味を持つ。  
②本稿の考察対象の7語は、形態を部分的に共有し、構文的、意味的対応を持つ場合がある。

本稿は、この2つの問題を解決するために、先行研究を踏まえ、次のように考察していくと述べた。

- (2) ①本稿の考察対象の各語を多義語と考え、多義語として意味分析を行う。  
②本稿の考察対象の7語に見られる形態的、構文的、意味的対応を自動詞と他動詞の対応という観点から考察する。

続く第2章では、本稿が依拠する理論的背景について、先行研究に基づき概観した。本稿は、研究の目的を実現するため、認知言語学に依拠して意味記述を行うことを明示し、認知言語学における語の意味の考え方について、認知(能力)の反映としての意味、百科事典の意味という2つの点を確認した。

第3章では、本稿の研究の方法について述べた。まず、多義語の意味分析の方法について、本稿における多義語分析の課題(「それぞれ確立した」複数の意味の認定、

「複数の意味の相互関係の明示」)を明確にし、それぞれの課題の解決の方法について、先行研究の提案とともに、本稿の立場を示した。次に、自他対応の分析方法について、前提となる、自動詞、他動詞、自他対応の定義を明確にし、そのうえで、自他対応の成立条件に関する先行研究を検討した。そして、本稿が援用する概念として、力動性について確認した。

第4章から第6章にかけては、7つの動詞について、意味分析を行った。

第4章では、「キル」、「キレル」、「キラス」という3つの語について、多義語としての意味記述を行い、3つの語の自他対応について考察した。「キル」について、9つの意味(別義)と7つの文脈的別義を認定し、別義間の関連性について、メタファー、シネクドキー、メトニミーという比喻の観点から記述した。また、「キレル」について、9つの別義と3つの文脈的別義を認定し、別義間の関連性について、メタファー、シネクドキー、メトニミー、主体化の観点から記述した。さらに、「キラス」について、3つの別義と1つの文脈的別義を認定し、メタファーとメトニミーの観点から記述した。最後に、3語の多義語分析を踏まえ、3つの語の自他対応の様相を示し、その様相を動機づける自他対応の成立条件について、力動性の観点から示した。

第5章では、「ワル」と「ワレル」という2つの語について、多義語としての意味記述を行った。また、この意味記述を踏まえ、2つの語の自他対応について考察した。「ワル」について、8つの別義と3つの文脈的別義を認定し、別義間の関連性について、メタファー、シネクドキー、メトニミーという比喻の観点から記述した。また、「ワレル」について、6つの別義と2つの文脈的別義を認定し、別義間の関連性について、メタファー、メトニミー、主体化の観点から記述した。さらに、2語の多義語分析を踏まえ、2語の自他対応の様相を示し、その様相を動機づける自他対応の成立条件について、力動性の観点から記述した。

第6章では、「サク」と「サケル」という2語について、多義語としての意味記述を行い、その上で、2語の自他対応について考察した。「サク」について、4つの別義と2つの文脈的別義を認定し、別義間の関連性について、メタファーとメトニミーという比喻の観点から記述した。また、「サケル」について、3つの別義を認定し、別義間の関連性について、メタファーと主体化の観点から記述した。さらに、2語の多義語分析を踏まえ、2語の自他対応の様相を示し、その様相を動機づける自他対応の成立条件を記述した。

第7章の最終章では、本稿のまとめを行い、今後の課題について述べた。

本稿の意義は、従来、日本語の動詞の意味の研究において、詳しく取り上げることのなかった「切断・分離」を表す動詞について、最も基本的で、意味・用法の上で問題となる7つの動詞の意味を解明することにより、「切断・分離」を表す動詞の意味に対する理解を深め、「切断・分離」を表す動詞の意味や動詞の意味の研究に関心を持つ研究者や学習者にヒントを与えることにあると言えよう。